

公表 事業所における自己評価総括表 (放課後等デイサービス)

事業所名	ふるーれプラス
保護者評価実施期間	令和8年2月14日～令和7年3月31日
保護者評価有効回答数	(対象者数) 25名 (回答者数) 22名
従業者評価実施期間	令和8年3月16日～令和8年3月30日
従業者評価有効回答数	(対象者数) 6名 (回答者数) 6名
事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月20日

分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取り組み等	さらに充実を図るための取組等
1	心理、保育士、児童指導員の有資格者による年齢構成の幅広いチームで支援を実施している。	常に有資格者3名体制をとることで、安全性を確保しながら効果的な療育を実施している。	ベテラン職員の経験、知識を中堅職員に円滑に伝達していく時間を設けていく。
2	幼児期から就学後まで必要な児童については、移行時期を支援継続できる。	児童発達支援事業との多機能型のため、引き続き就学後も利用する児童については、過去の経過を踏まえて理解するようにしている。	定員順守しつつ、できるだけ多くの児童を受け入れてきた。
3	児童館等の児童施設での長年の勤務経験のあるスタッフを配置している。	各学年に応じてカードゲームなど、多様な活動を通して活発なグループ活動を行っている。	ベテラン職員を今後も活用していきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の用意等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が不足していること	ほとんどの児童が保育所や幼稚園に在籍しているため、他の児童との交流の場が確保されており、事業所として取り組むべき課題として優先順位が低い。	法人として近隣の一般児童対象に実施している音楽会や人形劇鑑賞会に参加をよびかけて交流の場としている。
2	保護者同士の交流の場が少ないこと	交流の場を求める意見と、不要だという意見とがあるため、具体化の方策が浮かばない。	保護者会の中で時間をとることも考えられるが、限られた時間の中でどの程度優先されるのか検討が必要。
3			